五

ロ仁9
2067
4

門口文庫
2067

十巻之目

續人の花巻之中

釈法悦

一おとこ女よかぎりなくちぎりをむすびてもいでるものなれど中にもおとこハ心さだめなるものにて女ハ尚庭よりひろきあり殊に男ハ女ハわきまえなくて心よかりかいひもやまでくるとも孫よつゝきとれども

いろ〳〵のうぶひもおろさせておもハぬ
るまておすひもごしらへ常ゝ稱て
そのうちはまくとうよりに出ろひぐちよ
りまちひぐちも出されて世の中よ
姉姑の中乃よ紀ハまれおりてもわざわも
よあ出ろあの中姑より紀ハりつけの間へと
いりいろるれとうまて中のいりきとと
つゝかんくろふまぐく姑ハ男姑

おりとは出ろうぶ出さるのかてとふいまぐ
りもてまてじめて他人の中へ出ろ
しられとものぐとんとれぐとて出ろと
あのようもおつとの家まへ入ろと
のゝおりひ中くと出ろとあしくけて
らんとおりひまうひりろんとの間よハ
ねてとけりまもあんもれもとれて
初のゝらはなろあたつ紀ろつてと出ろ

年なりまでハ志ゝゝめと申ちゝ母
きゝとゝのゝ御ごゝんまゝのごとくなるゝ
志ゝるふゝうあゝしゝゝの中あゝさゝの
りゝふ志ゝゝあれおゝゝゝしゝびりのど
なりひゝちのなゝ紀ゝう申おゝるゝごゝんゝ行之
ゝの孔ハゝゝゝゝ孔むゝゝゝゝゝびむゝ嫁
ゝゝゝハ産のむゝゝゝ孔ごゝゝん有りひずい
ごんふ桜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ乃

ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝぬたゝんの中へ
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とりぬいとうのうつくしきをとりて
ちらしとりやるあれあやまちかと
思おもひのさげんあしきやうにはそだちも
とりあしあるまうとつくのひつうはしんの
あるあはせ袖んごろよおんまくとく
つりしかくもあのみめさりやしてかさけ
とりけていさうはいさぐいかもあかせよ
そのかさしまみりて実の母うあかてふ

かりけれくおりひまうあとまうひつくこ
りうなれこもうもうねんよなうはをも
つてましかあくあんなどれくばうあうう
とあれ中のあしきよ者へうしたうをと
さうれくてはよくまうはなかなる
れくれあるまのうれのとうしやれく
せあうけそのしやうそでおひてうるい
あそこさりとういのこれはなうべきこんしやぶ

ごとくきのこと成なるぬかそのとしまて
なるのしていてるまてどもあとるハなるのあ
ぞなるのもうもさせ乞の志ハとも
のでしらるくとおてまいりでりとも
とひ出くるへいるのだらのそのこなるる
よはまるなるめかるのまてせ張よりうけく
してせとのるものとりけしのやもむ海
まおじるぬるおぞてまへの新よ先乃

時のるるるまるとまてとをもを
まるるうふるうるるるるるるるるる
てまへのまるるるるるるるるるる
むまるまるまるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるいてきまるるるるるるるるる
る氣よのるるるるるるるるるるる
りんのるるるるるるるるるるるる

みくさをうけてのこりまて月をあいらく
乃なんなんせいひ茶のこ嵩よりどうてう
まいりまいりまちぐうえんのるまでうかぐへさそくと
ひとうこんをかとやわらぐものはどうでう
でくあることなひとうをていひのトーを
いぐうそうめはゆのうくまれうこと
うそばうもひるまくまびくとのつくこ三居
ぬてのまくおくれはかれまとやうん

さえいのまおかぬてくさのそくこうんじま
もしくとせぬのとうまふつけうあつき
つくれめをうんとうと抱くなさけあるを
さぬきくまかれうき事とおうまづ
まくりの代まをうんしてうんのしーきう
ちあれ四十ゆ年ちなるやくしの年をくしゃ十七八
よなるちあ乃ひとにはとてあれうんうの
うめとナ七八のうちめさうまはうとうる

とき[illegible]ふハ[illegible]なくさゞめく
うきめのあひぬんとぐ[illegible]
うゝとたゝそ[illegible]ハたるものゝこれ
さゝもれぬるゝ[illegible]ゞうなるものゝいん
やうゝもゝびゝむ[illegible]ぬものゝこゝめて
他人のけゝ出ものと数十の新さゝと
れあつゝふゝうゝのつまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きれぬ面へ[illegible]

とてゝやゝくいゝ六歩一丈ばかるもゝれゝの
ゝゝあゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

自然とそこなはれぬべきの一つにはうぎう
あるものゝ中に水の流のさゞめくに
もぐまれぬるひとつまに毒は
こゝろ和らぎ熱はつれ血はうるほひ古来の枝乃
うれもとづくしもむのまなびとし
ひぶいてこて立居しゆまなうかゝく
心はうまくもぶへなく何かと取れつゝ
きこゝあふくもの先ぬへうこげもを

なるあるそのようにふむうしのつゝく
あらしまれつうかんまこゝあ堅ハ
いふつゝうしきこゝあもも考りするぐ
乃あれいぶんの半ばそれ考こゝあこし
ちゆうんよハいゝあいしく神人こゝよ
こハ海こゝあるしてさそれだ考こゝあを
そのふこしとうんじまくゝのひまくゝ乃
那と考うこゝ人ひれもちぐへそれもつま

しくなるものれうをきんぢいけうを
いなやとやるの此のよるれること心
ようなるのことにまたひいぢんの
つくるなどでいんぢまたなるきく
きくものいてとをもつくあこう
ゆへこれう中略なるくいふくよ
ようあらいう係むつよきくあるも

ずいぶんきんぢいかくしつくその表よ
居通ともしにたうけつくあるをを
なるでずいぶんをつくしみて
まきくあるをうはきくめぐられるを
なりひ出しものこおりひやうわれば
どうぬどづあやうんぢぬれと
いくうなきけとをもてそくこうひき
まつへきくはやうひよむぐいつが

ゆきあひてよめるの中にむつまじく
あよこびゝなるれとよかきひまなく
いへもさくへやけんのかゝとれうてんのも
ちひさつきこゝろ孫百こゝろめぐくこゝん
じゆいこゝしまゝりしまゝゆゝ
ぜゝ紙よ弟(こねぶ)りし

一世の中よ絶(まく)母のまゝこゝ
せのゆゝかゝくせ弟のまゝ母(ぼ)なかゝぬ

ゝこゝとゝやなゝこゝもゝ茶のまゝこゝとかゝむい
いゝるゝんゝさゝしゝゝやゝこゝゝれは仕(しき)場(ば)そ
ぬゝとゝゝすゝふひゝゝくゝさゝもゝあゝ返しき
事ゝゝれゝういゝゝゝうゝまゝこゝとゝあゝこゝて
ゝゝるゝゝぬゝこゝゝゝ

なりけて命をとしをあしくあく
るれりくはなのうち少しおりまいらせ
給女のたまくのかしこまりて神むかう
つようたうかう歌をうたひあそ
ばしまうしつゝハやんさいのうさ
をときくもいやうのうつくしきのおんと
弟まのことをいひ出せばまやまあく
むかしまやし神むかうかつきよ迎く

なりさしてもなを半ばかりを耳よりけを
だしてめなをしてあくるひいちん
さいの命日のおりとの香を拾ひむけをと
ひようびけあないびとるこの内ハ神ま
まとおもふこれ一つまハその文おう妻
のこゝろをすれざるとをとんきこ二つよ
やんまあまうまうがかゝゝ神まくかの内ん
とのまくひようこずきくぬやんさいまくと

いきどほりの所をばうくけ色びけるとふくね
しゝゝくのこくとものうゝゝゃんさいのるぶ
からふなりなりとそのうくよりぶるぶ赤ると
いなやまるるぶたやぬるたらわぶるれ色よ
おぶ色ぶうゝゝぞはるるよあゝゝ犯るゝせるい
しるりふゝゝいめくまるれぶくく色神ゝ
月秋いやぬゝいろくれるゝ世れるゝく
父るゝゝまるせあるひハ濃ゝとるまゝてあゝ

海よりひれゝゝまるは毒ぶいゝで殺なぶ色
るるるるとるくるるうる出るる色心ゆておりまるハ
りるるる欲ハおなぶぶるうるるるるるるび
おるるこの才ゆまるるるるれぶるおるるこハ
おりひ明ゝゝあるる色欲るるに女るる濃
女はりのぶ一るるぶるおりひいるるりのかゝ
いるゆまるゝゝ神るるるつまるおりひるゝ
まるゝ神まるるるるるるのゝおるるるハ

ちかひのあとをたゝくいろつゝのを
あらゝめなけをたゝくいろつゝのを
をりをりをあをいかしへうの蛇なりを
ア[illegible]ア[illegible]ア[illegible]人をなやまし給
まことにをりをしをたゝくをたゝく
をたゝくをたゝくをたゝくをたゝく
あしをたゝくをたゝくのつゆをゆゞんしあらで
をたゝくをたゝくをたゝくをたゝくのか
をたゝくをたゝくをたゝくをたゝくをたゝく

をたゝくをたゝくをたゝくをたゝくをたゝく
一ひとりをたゝくをたゝくのをたゝくをたゝくを
百姓あるをたゝくをたゝくの百姓十石あるをたゝく
月なしをたゝくをたゝくをたゝくの子に一人の男をたゝくけ
二月よりをたゝくをたゝくをたゝくをたゝくをたゝくを
ゞをたゝくをたゝくをたゝくをたゝくをたゝくをたゝくを
をたゝくをたゝくをたゝくをたゝくをたゝくをたゝくを
ひとりのをたゝくをたゝくをたゝくをたゝくをたゝくを

のこゝ[illegible]ひとかるどもゝ[illegible]
ゝてゐ[illegible]るゞこゝ[illegible]ゝ[illegible]
おゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ぬ
さるゝくゝゝくゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝぬゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝたゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

なゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]ゝゝゝゝ
なんゝゝて月日ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よびたてゝ〳〵かれのゝく御人は女房のもと
へ男子をいそぎ送り来るにもてなしかれ
はんさいのゝ式しゝ風よりしが
ほうびのいてきてもち屋ぞて心ぐるまつ
ゝ〳〵おつゝふるまとでいつしかと
りもちをもつ屋ハ六つかゝハ三つよりもう
ちうに女房はんさいのゝとゝ〳〵ゝ
ゝをいとうしゝ〳〵ひとりゝとうたんとゝ

あくん
悪心いできちぐるよりとゝぐ紀ゝ
べきてぐそもれくらるるもうしゝ秋の
夕〳〵ゝもりの庭〳〵ゝとゝげよりふ出る
ゝとゝ人〳〵あつまりぬしハ大ぐゝを
おもゝ所をゝすゝるゝとゝりく
月出海一人ゝ出ゝれずゝ紀ゝて月ゝ
りゝゝ見ふゝて紙よつゝゝ仏ぐんの上へ
ゝゝかゝしゝ仏ぐゝの紀ゝとゝ合ゝ

へ入まこのまくらをせびあーのてくしてころ
しうしあんくんのくらにようこひわらう
その秋かの三つはなるおかまごとのもし成
なかをこれ毎日これくへくいほうす
れともいてこさびいうぐもんかれしうら
又ようようあいかくなひくすれも
秋中しいひいしやハをうれいうんとと
をへされなくてかりとうけてあひ

ようこひりうう成りひ出しいなやんは
りしひくくうこうぜくなくきこるる成
おりひつ年ようくうこうて紙ごんのトと
さうしかくしてうとうくうこうく
そうくゆるさてこのもせふうちち
いうりうんぜりて血成ちあへるく
死よりう毎ハいりくうるくきあ家のく
秋てけうとハうのひとのまかハ秋ハ

そなたのすがたしるしとてもうへせ
ようとてあれたびとはなりもおりひとう
ゑのごとくあきれてさるまでもひくすりゆそ
死ぬべきやうもなりしのちうちうをえかさ
してようくうれたりいしくすりふくふか
女房はこれをうけとりつつそれとのま
せてごしてものぞこのむれく
いひうとをりしかばめのせくまく

ゆきうとをたらべしふうらあやまうをきうふ
その方はくうとうとんくかうさうれとの
めく命れをきうぬくいひしはこれ毒薬
よりてその方をくくきしのとた
うゆのあふけ毒薬を飯へ拾やさ
ゆうあるその方塚支とうくうらるれ
こうさんあうまくるふうくいや
あなくしまをよやつきすし責れど

女房ちゝぶの国へ行くさうむいそゝ
ぎれ行くといいうかるくせりの侍乙
はるさとそだてとるく仲人と呼向へ
右の趣とかゝ、かの毒やくふくとれ娘の
りのも奥とさ海ゝ元源よ申ゝえゝとる
たゝとてかの女と石連歌えゝ
女の歌高砂よ拾ゝとゝ
ゝゝ一度ゝ二度ゝ不屈とゝく

遁出さん歌よらぎるとあさぐる不孝者
ゝにはけ度の仕方大ゝれる悪人之記ゞ
あゝん出へ仏祈のゝ冠とゝゝるゝ
よむゝそうさ月とゝんゝ輩のゝけ
ゝゝゝ作る命ゝ白月なゝとのれゝゝ
元人ハはゝ後いゝ根の悪ゝ仕方歌よ
なんぎとゝんゝりゝ七生ゝの
動南人ゝゝゝ系とゝ遁出ゝゝ

はるかに分け行くに、[illegible]人[illegible]
小くに村くにハいとまなくびきんげうかつへ
さうしてうせつをびに新軍の方まうこう
ろあるとやどすへ[illegible]ばかりなく
くにあつまれわれ会とくのへうこ
とものくにとあるびろくにこゆるひろげ
うこのはうまに又八里へぐらい雪をを
出るとあるこゆるよ月のもてあらう

つくりて月ハいやしくれくもみしよ実ま
てくなりうる見ひくくまてるの新潟を
小くにのひとちまちせ見ものあるハし
冥とくのかふものくあるつしこのふ
べきり半ばてあるしひされバのられ
つゆとなるうんぬ宿屋にはるあるびく
まくまうまうでるくもうでるようせ
のようといはしくらふべしまくるとこハ

てをの中ゆくくとてるのりすをめで
うつくしきもののようにおもうくしんん
人もものかたらいとんでいあくもつまくく
おもしやうつくしきさんでやどもこのうくく
なのうんといとうくしいくさうりまふく
あつくまくしまはざんうりくはさきあへ
ばれそうひ物しあれ
しうして

よきふなりくくきふうくくくは誰うあくさ
とうくん巻くさと楽くさくくく
てふ誰う若くさ方ようくん白さ紙
さにうくべうふんまくくまうひなうる
べくくれうおりひうくべいくるうのと
くくの巻のあうて紙の結をを
ひうくべうさくくなうんう
いうをなん人とうくれうくうとし

月のいかつりをおりひろうべく
ゑびすの人のみとてもふまあや
わらこにかすひろうべく

續人名辭書終

傳法村
保福寺
光福寺
信奉